

🌸 せたな町 🌸

予防接種のしおり



予防接種は事前予約制になっております。
必ず予約をしてください！

年 月 日交付

お子さんの
お名前

保護者の
お名前

も く じ

1. 予防接種のしおりの利用法	3
2. 予防接種の受け方	3
3. 接種前の注意	
○一般的な注意事項	3
○予防接種を受けることが出来ないお子さん	3
○予防接種を受けるときに、医師と よく相談する必要のあるお子さん	4
○その他	4
4. 予防接種を受けた後の一般的注意事項	4
5. それぞれの予防接種について	5
○BCG予防接種	5
○5種混合予防接種	7
○4種混合予防接種	8
○麻しん風しん混合予防接種	9
○インフルエンザb菌（ヒブ）予防接種	10
○小児肺炎球菌予防接種	11
○ロタウイルス予防接種	12
○水痘（水ぼうそう）予防接種	14
○日本脳炎予防接種	15
○B型肝炎予防接種	26
6. 異なるワクチン同士の予防接種の接種間隔	17
7. 予防接種の通知について	18
8. その他の予防接種について	18

1. 予防接種のしおりの利用法

予防接種を受ける時は、この「予防接種のしおり」をよく読んでください。

予診票を指定の接種会場に持参することで、無料で予防接種を受けることができます。

また、対象になる予防接種の2～3週間前に、はがきなどで個別に日程の連絡をします。

※麻しん風しん混合予防接種、日本脳炎予防接種、2種混合予防接種の第2期は、接種日時、会場等の案内、予診票などを対象時に送付します。

2. 予防接種の受け方

1. 予防接種の日程が近づくと、せたな町からはがきなどで予防接種の種類、日程、会場についての案内が届きます。
2. 接種を希望される場合は必ず**予約**をしてください。
3. 予診票に必要な項目を記入してください。
4. 母子健康手帳、記入した予診票を、予防接種会場に持参してください。
5. 当日は感染症拡大防止のため、自宅での体温測定及び体調確認をお願いいたします。会場では付き添いの方のマスクの着用と会場設置の手指消毒にご協力願います。

3. 接種前の注意

○一般的な注意事項

1. 受ける予定の予防接種について、このしおりやパンフレットをよく読んで、予防接種の必要性や副反応について知っておいてください。もし分からないことがあれば、遠慮なく保健師へ質問してください。
2. お子さんの健康状態がよいときに、他の予防接種との間隔を守って受けてください。予防接種の間隔については、18ページをご覧ください。
3. お子さんの体温は変わりやすいので、会場で測ります。体温計も用意してありますので会場に来てから測りましょう。
4. 予防接種を受けるときは、お子さんの体調をよく知っているご家族が連れて来てください。

○予防接種を受けることが出来ないお子さん

1. 明らかな発熱（37.5℃以上）のあるお子さん。
2. 重い急性疾患にかかっていることが明らかなお子さん。
3. 受ける予定の予防接種で、接種液に含まれる成分によってアナフィラキシーショック（普通、接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応）を起こしたことがあるお子さん。
4. その他、予防接種を行う事が不適切な状態にあるお子さん。

※1～3に当てはまらなくても、医師が接種を不相当と判断したときは接種できません。

○予防接種を受けるときに、医師とよく相談する必要があるお子さん

1. 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気等で治療を受けているお子さん。
2. 未熟児で生まれたなど、継続的に診察を受けているお子さん。
3. 前に予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギー症状を思わせる異常が見られたお子さん。
4. 今までにけいれんを起したことがあるお子さん。
5. 薬の投与を受けて皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがあるお子さん。
6. 過去に免疫不全の診断をされているお子さん及び近親者に先天性免疫不全症の方がいるお子さん。
7. ワクチンには抗原のほかに培養に使う卵の成分、抗生物質、安定剤などが入っていることがありますので、これらにアレルギーがあるといわれたことがあるお子さん。

○その他

- ・ 麻しんにかかった場合⇒治ってから4週間程度の間隔を目安に接種してください。
- ・ 風しん、水痘、おたふくかぜ等のウイルス性疾患にかかった場合
⇒治ってから2～4週間程度を目安に接種をしてください。
- ・ 突発性湿疹・手足口病等のウイルス性疾患にかかった場合
⇒治ってから2週間程度を目安に接種してください。

※あくまで目安です。接種するかどうかの最終判断は担当医師の判断となります。

- ・ 既定の回数を受けることが十分な免疫をつけるために大切です。追加接種があるものは忘れずに受けましょう。

4. 予防接種を受けた後の一般的注意事項

1. 予防接種を受けた後30分間は、重篤な副反応（アナフィラキシーショック・呼吸困難等）が起こりやすいため、接種会場でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれる状態にしておきましょう。
2. 接種後、生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間副反応に注意しましょう。
3. 入浴は接種後1時間たてば差し支えありませんが、注射した部位をこすらないようにしましょう。
4. 接種当日はいつもどおりの生活で問題ありませんが、水泳・マラソン等の激しい運動は避けましょう。
5. 接種後に接種部位の異常な反応や体調に変化があった時は、速やかに医療機関を受診しましょう。

5. それぞれの予防接種について

〇BCG予防接種・・・うすい青色の予診票

BCGは結核の予防注射です。結核とは結核菌の空気感染によって起こる病気で、日本では年間およそ3万人の患者が発生しています。生まれたばかりのお子さんは抵抗力が弱いため、全身性の結核症になることもあります。このため、早い時期での予防接種が重要です。

①接種方法

はんこ注射です。(生ワクチン)

スポイトでお子さんの上腕部に薬液を垂らして、はんこのような器具で接種します。以前行っていたツベルクリン反応(豆注射)は行いません。接種後は十分、接種した部位を乾燥させましょう。

②接種後の経過

通常、接種後10日頃から接種部位に赤いぼつぼつができ、一部に膿をもったりします。この反応は4週間頃で最も強くなり、その後かさぶたになって3か月くらいで治り、痕が残ります。これらは普通の反応です。

しかし、既に結核に感染していた方は、接種後10日以内に注射の部位が赤くなったり腫れたり、化膿したりします。もし、BCG接種後1～10日以内に大きく赤く腫れたり膿が出る等の強い反応(コッホ現象)があった場合は、速やかに保健師までご連絡ください。

③副反応

稀に生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状(ショック症状、じんましん、呼吸困難など)、骨炎、骨髄炎、骨膜炎、皮膚病変等が報告されています。また、接種1～2か月後に脇の下のリンパ節が腫れることもあります。通常は2cm程度までで次第に小さくなります。その場合は、様子を見るだけでかまいませんが、ただれる・大きくなる等したときは医師に見てもらいましょう。

④接種時期

生後直後～12か月未満(せたな町では、生後5か月～11か月児が対象です。)

⑤その他注意

副腎皮質ステロイド剤の使用(軟膏の部分的な塗布や気管支喘息で用いる吸入ステロイド、点眼や点鼻は除く)は接種を避けてください。また大量あるいは長期間使用した場合は薬剤の中止後6か月程度経っての接種が望ましいといわれています。また、免疫抑制剤を使用している場合も接種を避けます。アトピー性皮膚炎などでBCGの接種部位がジクジクしているような場合は、皮膚状態が良くなるまで接種を控えます。外用ステロイド剤(軟膏等)で治療する場合は、治療により皮膚状態が良くなって、ステロイド剤を中止してから接種が出来ます。接種後の局所は当面の間(接種後の局所反応が治まるまで)ステロイド剤を使用出来ません。湿疹が重症・全身性でステロイド剤を広範囲・長期に使用してお

り、全身的免疫抑制状態を判断された場合は、接種を見合わせます。

家族に結核患者がおり、長期に接触があった場合・過去に結核感染疑いのあるお子さんは
予防接種を受ける際には、接種可能かどうかをかかりつけ医等に判断してもらいましょう。

○5種混合予防接種 ・ ・ ・ 薄いピンク色の予診票

※令和6年4月から定期接種開始（概ね令和6年2月以降に出生された方が対象となります）

5種混合予防接種はジフテリア、百日咳、破傷風、急性灰白髄炎（ポリオ）、ヒブの予防注射です。

ジフテリアは感染しても症状が出にくい感染症ですが、発病すると高熱や嘔吐、窒息、心筋障害などを起こすこともある病気です。

百日咳（ひやくにちせき）は呼吸が出来ないほどの連続したせきが出る感染症で、肺炎などを合併する危険な病気です。

破傷風は土の中に潜んでいて、傷から感染します。感染し、菌が増えると、全身けいれんなどを起こす病気です。

ポリオは「小児マヒ」とよばれるウイルス感染症で、最近では国内での自然感染は報告されていません。しかし、東南アジアやアフリカ諸国などでは今でも流行することがあります。ポリオに感染すると1,000～2,000人に1人にマヒ患者が発生します。

ヒブは感染しても無症状の保菌者が大半ですが、一部ではヒブが血液の中に侵入し、髄膜炎・敗血症・肺炎・関節炎・骨髄炎・蜂巣炎・喉頭蓋炎等の重篤な全身感染症を起こす場合があります。

①接種方法

皮下注射または筋肉内注射です（不活化ワクチン）

②副反応

よくみられる副反応としては、注射部位の発赤、腫れ、しこりなどです。その他注射部位以外では、発熱・鼻水・咳・発疹・気分変化・下痢・不機嫌等があります。稀に生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状（ショック症状、じんましん、呼吸困難など）、急性血小板減少性紫斑病（紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等）、脳症及びけいれん等が報告されています。重い副反応がなくも、機嫌が悪かったり、腫れが目立つときなどは医師に相談してください。

③接種時期：生後2か月～生後90か月

初回接種：20日以上（4週間～8週間）の間隔で3回接種します

（標準として生後2～7か月に至るまでに開始する）

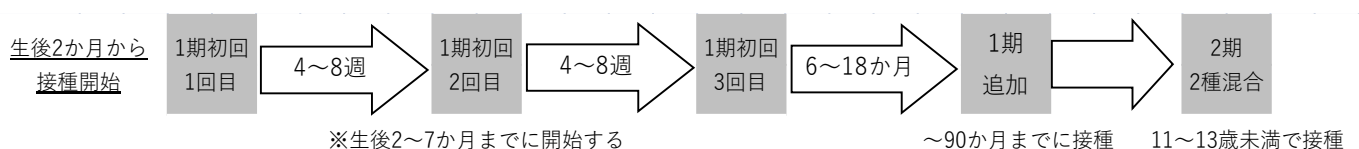
追加接種：初回接種が終わってから6か月～18か月までの間隔をおいて1回接種します

（標準は初回接種終了後6か月～13か月の間に1回接種）

せたな町では初回3回目終了後、おおむね6か月以降で通知します。

2期：11歳～13歳未満（標準的には小学6年生）に2種混合予防接種（DT）を

1回接種します。（第2期の案内の時は改めて予診票などを送付します）



○ 4 種混合予防接種 黄色の予診票

※～令和 6 年 1 月までに出生された方が対象になります。

4 種混合予防接種はジフテリア、百日咳、破傷風、急性灰白髄炎（ポリオ）の予防注射です。

ジフテリアは感染しても症状が出にくい感染症ですが、発病すると高熱や嘔吐、窒息、心筋障害などを起こすこともある病気です。

百日咳（ひやくにちせき）は呼吸が出来ないほどの連続したせきが出る感染症で、肺炎などを合併する危険な病気です。

破傷風は土の中に潜んでいて、傷から感染します。感染し菌が増えると、全身けいれんなどを起こす病気です。

ポリオは「小児マヒ」とよばれるウイルス感染症で、最近では国内での自然感染は報告されていません。しかし、東南アジアやアフリカ諸国などでは今でも流行することがあります。ポリオに感染すると 1,000～2,000 人に 1 人にマヒ患者が発生します。

①接種方法

皮下注射です。（不活化ワクチン）

②副反応

よくみられる副反応としては、注射部位の発赤、腫れ、しこりなどです。その他注射部位以外では、発熱・鼻水・咳・発疹・気分変化・下痢・不機嫌等があります。稀に生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状（ショック症状、じんましん、呼吸困難など）、急性血小板減少性紫斑病（紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等）、脳症及びけいれん等が報告されています。重い副反応がなくても、機嫌が悪かったり、腫れが目立つときなどは医師に相談してください。

③接種時期：生後 2 か月～生後 90 か月

（R5 年 4 月 1 日より接種開始が生後 2 か月からとなりました）

1 期初回：20 日以上（標準は 20～56 日）の間隔で 3 回接種します

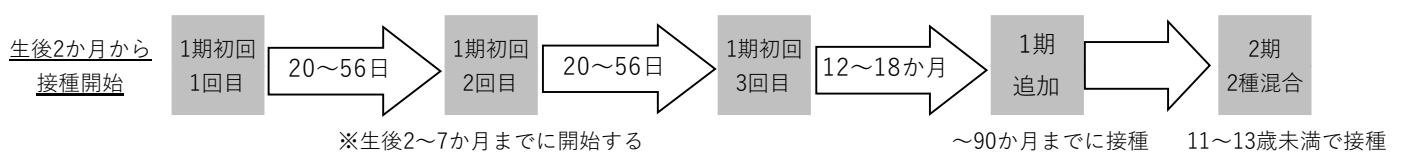
（標準として生後 3～12 か月）

1 期追加：1 期初回 3 回目が終わってから 6 か月以上の間に 1 回接種します。

（標準は初回終了後 12 か月～18 か月）

せたな町では初回 3 回目終了後、おおむね 12 か月以降で通知しています。

2 期：11 歳～13 歳未満（標準的には小学 6 年生）に 2 種混合予防接種（DT）を 1 回接種します。（第 2 期の案内の時は改めて予診票などを送付します）



○麻しん風しん混合予防接種・・・薄茶色の予診票

麻しんは「はしか」とも呼ばれ、麻しんウイルスの空気・飛沫・接触感染で広がり、とても感染力が強いといわれています。同じ空間に短時間いただけでも感染し、免疫がないとほぼ100%感染します。典型例は約10日～12日の潜伏期の後に「カタル症状（咳・鼻水）・目の充血・目やに等とともに38℃以上の熱が数日です。この時期が感染力の強い時期です。その後、一旦熱は少し下がりますが、再び39～40℃の高熱と耳の後ろに発疹が出始めます。発疹が出る前日から「コプリック斑（周りが赤く中心が白い口腔粘膜にできる発疹）」が認められます。その後1～2日で全身に発疹がひろがり、さらにカタル症状がひどくなり、高熱が4～5日続きます。治療は対症療法のみとなります。感染から1か月間は免疫が低下し、新たな感染症、合併症に注意が必要です。麻しんの合併症として、気管支炎（7～9%）、肺炎（1～6%）、中耳炎（7～9%）、脳炎（0.2%）があります。また、麻しんが治って数年～10年程度経ってから発症する「亜急性硬化性全脳炎」は麻しんにかかった人の数万人に1人の割合で発症し、極めて重篤で致死率ほぼ100%といわれています。風しんは風しんウイルスの飛沫感染（くしゃみやせきで感染）によっておこる病気です。潜伏期間は2～3週間で、発疹や発熱、リンパ節の腫れが主な症状ですが、3症状がそろうのは約半数です。その他、目の軽い充血・肝機能障害・関節炎等の症状もみられます。発疹は3日くらいでおさまるので、「三日はしか」とも呼ばれます。約15～30%の人が感染しても症状の出ない不顕性感染で終わります。予後は一般的には良好ですが、血小板減少性紫斑病、脳炎等の合併症があるため軽視出来ない病気です。また、大人になってから感染すると重症化しやすくなります。妊婦が妊娠20週頃までに感染すると、胎児も感染し、先天性風しん症候群（子どもの心臓病や白内障、難聴、精神発達遅滞等）が高い確率で発生します。

①接種方法

皮下注射です。（生ワクチン）

②副反応

主な症状は発熱・発疹で接種後13日以内（特に7～10日）に多くみられます。2回目の接種では頻度が低くなります。稀に生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状、急性血小板減少性紫斑病、脳炎及びけいれん等が報告されています。

③接種にあたっての注意事項

接種する3か月以内にガンマグロブリン注射を受けた・輸血をしたことがある人は、十分に免疫ができないため接種を延期する場合があります（通常は3か月以上の間隔をあける）川崎病等でガンマグロブリン大量療法を受けたことがある人は、6か月以上過ぎてから予防接種を受けてください。

④接種時期

1期：生後12か月～24か月未満に1回。

2期：5歳～7歳未満で、小学校就学の始期に達する日の1年前の日から当該始期に達する日の前日までの間（小学校就学前の1年間）に1回

出生時	6ヶ月	12ヶ月	18ヶ月	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳
			第1期 1回					第2期 1回		

○インフルエンザb菌（ヒブ）予防接種・・・緑の予診票

ヒブとは、「インフルエンザb菌」という細菌の略称ですが、冬に流行する「インフルエンザ」とは全く別のものになります。ヒブは咳やくしゃみ等の飛沫で感染します。感染しても無症状の保菌者が大半ですが、一部ではヒブが血液の中に侵入し、髄膜炎・敗血症・肺炎・関節炎・骨髄炎・蜂巣炎・喉頭蓋炎等の重篤な全身感染症を起こす場合があります。

ヒブによる髄膜炎は抗菌薬治療を行っても予後不良になる場合が多く、治ってもてんかんや難聴・発育障害などの後遺症が約25%で残るとされています。

平成22年以前は年間400人ほどが発症しており、生後4か月～1歳までの乳幼児が過半数を占めていましたが、ヒブワクチンが普及してからは激減しており、ワクチンの効果が認められています。

①接種方法

皮下注射です。（不活化ワクチン）

②副反応

よくみられる副反応としては、注射接種部位の発赤、腫れ、しこり、痛みや発熱・不機嫌・下痢等です。副反応のほとんどは接種後2日までに出来ます。

重い副反応としては、非常に稀ですがショック、アナフィラキシー様症状、けいれん、血小板減少性紫斑病が報告されています。

③接種時期：生後2か月～5歳未満

望ましい接種スケジュールは、2か月～7か月になるまでに接種を開始し、4～8週間隔で3回、追加免疫として、3回目接種から7～13か月後に1回の計4回になります。ヒブの接種スケジュールは、接種時期等により接種回数が異なりますので、ご確認ください。

接種開始月齢	回数	接種方法
2～7か月未満	4回	27日以上の間隔で3回接種、 3回目の接種後7か月以上あけて追加接種1回。 ※2回目・3回目が1歳までに終わらない場合は接種回数が変わります。
7～12か月未満	3回	27日以上の間隔で2回接種し、 2回目の接種後7か月以上あけて追加接種1回。 ※2回目が1歳までに終わらない場合は接種回数が変わります。
1歳～5歳未満	1回	1回接種で終了です

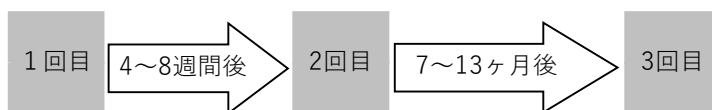
【標準的接種】

生後2～7か月
未満で接種開始



【標準的接種でできなかった場合】

生後7～12か月
未満で接種開始



1～5歳未満



○小児肺炎球菌予防接種・・・・・・・・青色の予診票

肺炎球菌は子どもの多くが、鼻の奥に保菌していて、ときに細菌性髄膜炎、菌血症、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎といった病気をおこします。肺炎球菌性髄膜炎は、予後が悪く、初期の症状は風邪と区別が付きません。肺炎球菌にかかりやすいのは生後3か月から5歳位までで、細菌性髄膜炎の患者は5歳未満の子ども10万人に対して年間200人位です。

①接種方法

皮下注射です。(不活化ワクチン)

※令和6年4月1日～開始される15価肺炎球菌ワクチンは筋肉内注射です。

②副反応

よくみられる副反応としては、注射接種部位の発赤、腫れ、しこり・痛みや発熱などです。重い副反応としては、非常に稀ですが、ショック、アナフィラキシー様症状、けいれんが報告されています。

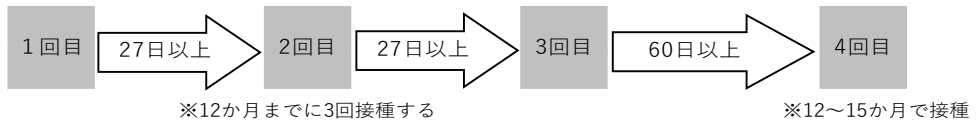
③接種時期：生後2か月～5歳未満

望ましい接種スケジュールは生後2～7か月未満の間に接種を開始して27日以上の間隔で3回、追加免疫として標準は1歳～1歳3か月の時期に(3回目の接種から60日以上あけて)1回の計4回になります。スケジュールは接種時期等により、接種回数が異なりますのでご確認ください。

接種開始月齢	回数	接種方法
2～7か月未満	4回	27日以上の間隔で3回接種、60日以上あけ、かつ1歳(標準1歳～1歳3か月)になったら追加接種1回 ※2回目が1歳までに終わらない場合は接種回数が変わります。 3回目が2歳までに終わらない場合も接種回数が変わります。
7～12か月未満	3回	27日以上の間隔で2回接種します。 1歳過ぎてから1回接種します ※2回目が1歳までに終わらない場合は接種回数が変わります。
1歳～2歳未満	2回	60日以上の間隔で2回接種します
2歳～5歳未満	1回	1回接種で終了です

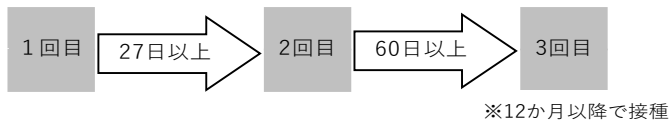
【標準的接種】

生後2～7か月
未満で接種開始



【標準的接種でできなかった場合】

生後7～12か月
未満で接種開始



1～2歳未満



2～5歳未満



○ロタウイルス予防接種（ロタリックス）・・・白色の予診票

ロタウイルスは胃腸炎を起こすウイルスで感染力が強く、口から少量のウイルスが入っても感染してしまいます。年齢に関わらず何度でも感染しますが、症状は初めての感染が一番重症になり、ほとんどのお子さんが5歳までに一度は感染するといわれています。

ロタウイルスに感染すると1～2日の潜伏期間を経て、激しい嘔吐や水様性の下痢を繰り返す症状が数日間続きます。そのため、脱水やけいれんなどを起こしやすくなり、入院が必要になる場合もあります。発熱や腹部不快感等もよくみられます。合併症で脳炎や脳症、急性腎不全・肝障害・心筋炎等を起こすことがあります、ワクチンを受けることで重症化予防が期待できます。

①接種方法：経口接種（生ワクチン）

※授乳制限はありませんが、吐き戻し防止のため接種前後30分程度あけることを推奨しています。また、多少の空腹感がある方がワクチンを受けやすいと考えられています。口からこぼしてしまうこともありますので、ガーゼなどをご準備ください。

②副反応など

主に下痢（5.5%）、嘔吐（4.2%）、胃腸炎（3.4%）、発熱（1.3%）等の副反応があります。重い副反応として、まれにアナフィラキシー様症状が起こることがあります。

また、接種後1～2週間は腸重積症のリスクが通常よりも少し高まるという報告があります。腸重積症とは腸の一部が腸の他の部分に入り込んでしまい、血流が悪くなることで腸の障害が起こる病気であり、速やかな治療が必要となります。

症状は…

- | | |
|--------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 突然激しく泣く | <input type="checkbox"/> 泣いたり不機嫌なったりを繰り返す |
| <input type="checkbox"/> イチゴゼリー状の血便 | <input type="checkbox"/> 何度も嘔吐する |
| <input type="checkbox"/> ぐったりして顔色が悪い | <input type="checkbox"/> 腹痛やお腹のはり 等があります。 |

接種回数に関わらず、接種後1～2週間は特に体調にご注意ください。

何か一つでも症状があったり、いつもと違うと感じたら、速やかに医療機関を受診してください。また、過去にロタウイルスワクチンで過敏症やそれを疑う症状のあった方、先天性消化管障害がある方、過去に腸重積症にかかったことがある方、重症複合型免疫不全のある方はリスクが高いため受けることができません。

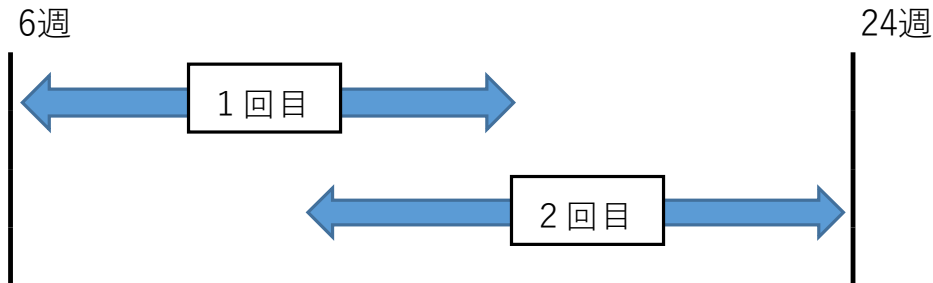
母親が妊娠中に生物学的製剤や免疫抑制剤の投与を受けていた場合は、ロタワクチンを含む生ワクチンを生後6か月まで控えた方が良い場合もありますが、薬の種類や投与期間で対応が変わるため、専門医等に事前に相談願います。

③接種時期：生後6週～24週

せたな町で使用するワクチンはロタリックス（1価）のため2回接種となります。

1回目の接種は生後6週から可能ですが、生後2か月から接種できる5種混合・ヒブ・小児肺炎球菌・B型肝炎ワクチン予防接種とのスケジュールを考慮して、生後2か月～14週6日が標準的接種期間となっています。

初回接種から27日以上をあけて2回目を接種します。



※1回目は14週6日までに接種することが推奨されています。生後15週以降の接種は安全性からお勧めしていません。

※2回目は、1回目の接種から4週間以上間隔をあけて生後24週0日までに接種します。
生後24週を過ぎると接種ができませんのでご注意ください。

④その他

ロタワクチン接種後は、便中にウイルスが排出されますが、排出されたウイルスから胃腸炎にかかる可能性は低いとされています。しかし、念のためにオムツ交換後等は手洗いをしっかり行ってください。

ロタワクチン接種後に吐いてしまった場合でも、少量でも飲み込んでいれば一定の効果があることや複数回接種するため、吐き出しても1回の接種とお考えください。ロタリックス（1価）は、吐き出してしまった場合は、任意接種として再接種も可能ではありますが、上記の理由からお勧めはしていません。

○水痘（みずぼうそう）予防接種・・サーモンピンク色の予診票

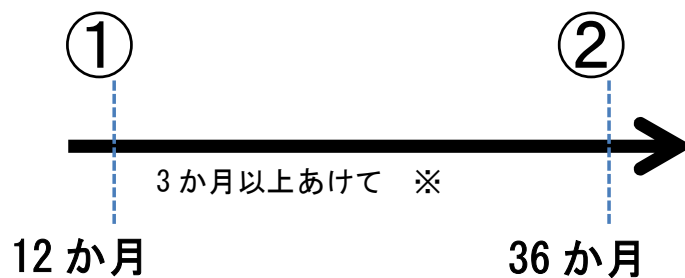
2～10歳の子どもがよくかかる感染症です。感染力は強く、ワクチン未接種の場合、10歳までに80%の方がかかるとされています。高熱とともに顔や頭、口の中をはじめ全身に大きさが不ぞろいな湿疹（250～500個以上）ができます。かゆみのため引っ掻く等して、細菌感染を起こすことがよくあり、痕が残ってしまう場合があります。熱は2～3日続き、40℃を超えることもあり、熱性けいれんを合併することもあります。稀に脳炎・血小板減少性紫斑病・心膜炎・肝炎等の重い合併症を引き起こします。成人では小児と比較し重症化します。潜伏期間は2～3週間で、水疱がなくなるまで飛沫感染（くしゃみやせきなどからの感染）や接触感染（触ることで感染）します。

①接種方法：皮下注射です。（生ワクチン）

②副反応

よく見られる副反応としては、接種部位の発赤・腫脹・硬結等、発熱、発疹などです。重い副反応としては、非常に稀ですが、アナフィラキシー様症状、ショック等があります。

③接種時期：生後12か月～36か月



標準期間：1回目は生後12～15か月

2回目は1回目から6～12か月後

※せたな町では、2回目は1回目接種から6か月以上間隔あけてご案内します。

※水痘にかかったことがある方は接種する必要はありません。

お手数ですが、保健師までご連絡願います。

○日本脳炎予防接種・・・藤色の予診票

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。ブタなどの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介されて感染します。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどを示す急性脳炎になります。ヒトからヒトへの感染はありません。流行は西日本が中心ですが、ウイルスは北海道などの一部を除く日本全体に分布しています。日本脳炎患者は日本では年間10人以下ですが、世界では年間68,000人（2019年WHO報告）が日本脳炎患者となっています。感染者のうち100～1,000人に1人が脳炎を発症します。脳炎のほか、髄膜炎やかぜ様の症状で終わる人もいます。脳炎にかかった際の致命率は20～40%で幼少児や高齢者は死亡の危険性が高く、生存者の40～75%で神経の後遺症を残し、小児は重度な場合が多いとされています。

①接種方法：皮下注射です。（不活化ワクチン）

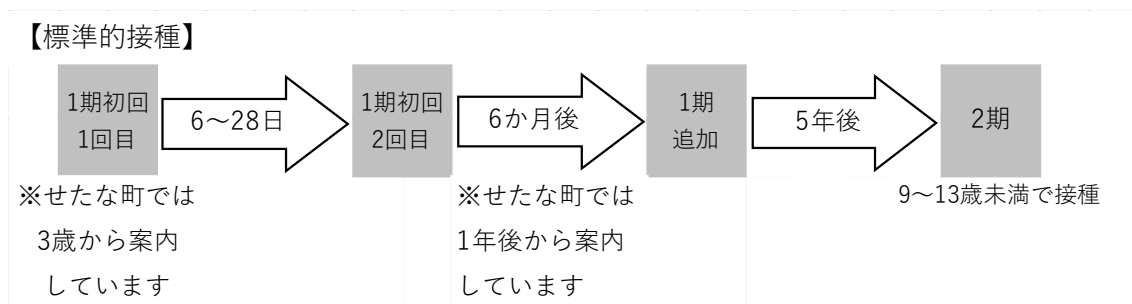
②副反応

よく見られる副反応としては、接種部位の発赤・腫脹・硬結等、発熱、発疹などです。重い副反応としては、非常に稀ですが、アナフィラキシー様症状、けいれん、脳症、急性血小板減少性紫斑病等もあります。

③接種時期：1期初回1回目～1期追加は生後6か月90か月

（標準時期は3歳から開始です。そのためせたな町では3歳からご案内しております。

1期2回目から1期追加までは1年間あけることが推奨されており、せたな町では1年後からご案内しております。）



○B型肝炎予防接種・・・・・・・・・・灰色の予診票

B型肝炎は、B型肝炎（HBV）ウイルスによつて肝臓で炎症が起る肝炎で、2～10歳の子どもがよくかかる感染症です。乳児期にHBVに感染すると慢性肝炎になることが多く、長期にわたり治療を必要とし、最悪、肝硬変や肝がんを発生します。B型肝炎は垂直感染（出産時母子の産道を通じて感染）や、水平感染（性的接触、血液を介して感染）をします。

①接種方法：皮下注射での予防接種です。（不活化ワクチン）

②副反応

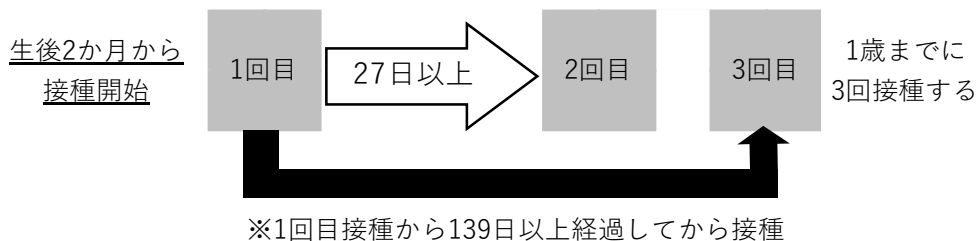
よく見られる副反応としては、接種部位の発赤・腫脹・硬結等、発熱、発疹などです。重い副反応としては、非常に稀ですが、アナフィラキシー様症状、ショック、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群などがあります。乾燥天然ゴム（ラテックス）の過敏症があるお子さんはアレルギー反応に十分注意が必要です。

③接種時期：2か月～12か月未満（標準で生後2か月～9か月）で3回接種します。

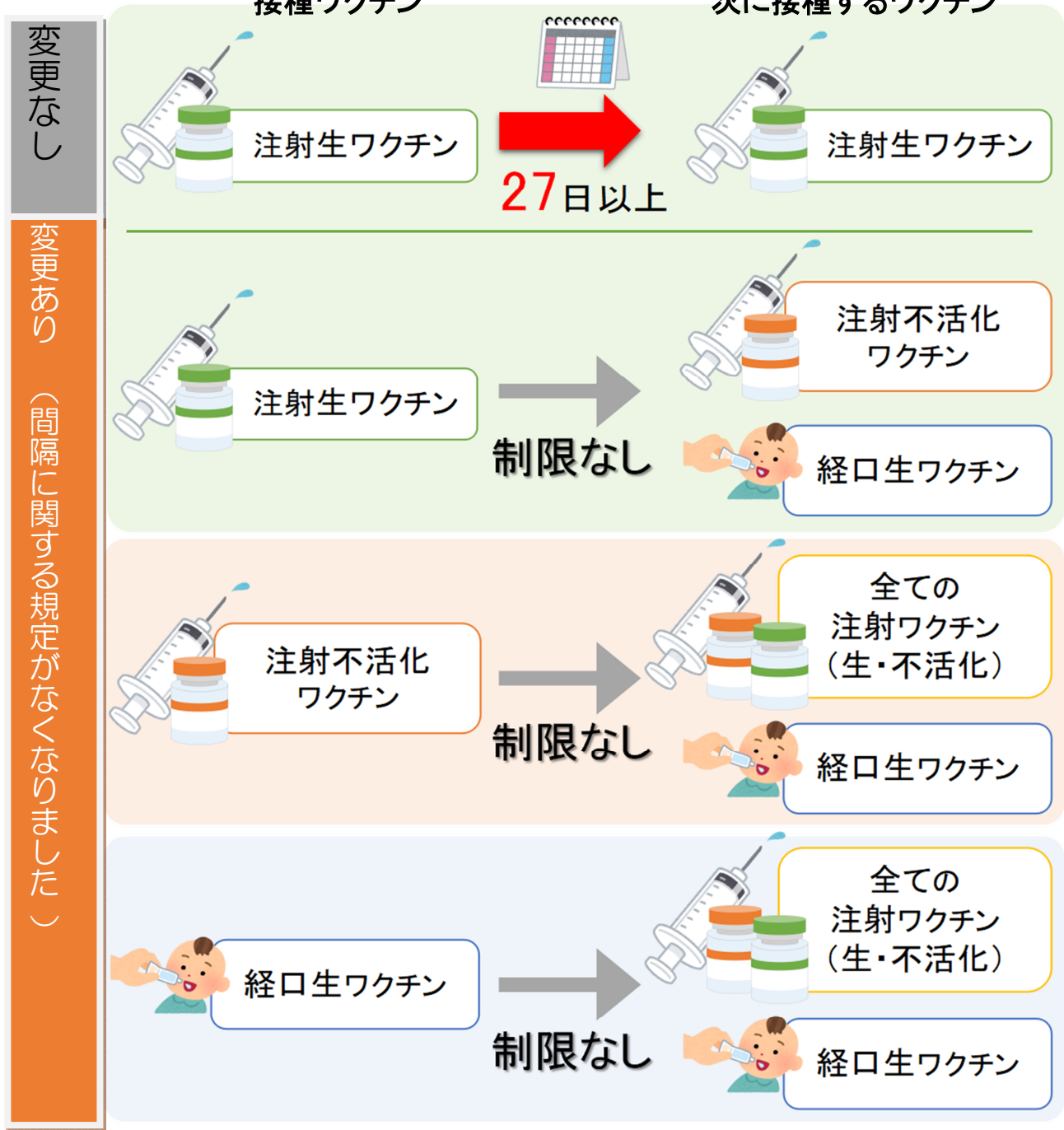
【定期接種対象外のお子さん】

①HBs抗原陽性の母親からの出生児で母子感染予防スケジュールで接種をする場合、保険適応での接種となります。

母子感染予防のため出生直後に接種された場合は、保健師へご連絡ください。



6. 異なるワクチン同士の予防接種の接種間隔



※注意※

接種から数日間は、発熱や接種部位の腫脹などの症状が出るることがあり、そのような症状があった場合は、規定上接種が可能でも、接種を延期とすることがあります。

7. 予防接種の通知について

せたな町では、予防接種の対象となったお子さんに個別通知を行っています。
通知は2～3週間前に発送しますので、内容をよく読んで会場にお越しください。
また、接種が終了しているのに通知が来る場合は、お手数ですが保健師までご連絡ください。

せたな町ではLINE（ライン）公式アカウントの運用を開始しています。
友達登録をするとLINEから予防接種の予約をすることができます。ぜひご登録ください★



二次元コードから
友達追加できます



予約手順

- ①リッチメニューの「予約申込」をタップ。
- ②予約する内容、日時を選択。
- ③予約者情報を入力すると予約が完了します。
なお、都合が悪くなった場合は、「予約申込」の画面からキャンセルすることができます。

8. その他の予防接種について

定期予防接種のほかにも、保護者の判断で医療機関などで接種できる**任意予防接種**があります。接種を希望される方は、小児科医やかかりつけの医師に相談してください。

せたな町では全年齢対象にインフルエンザ予防接種の
助成を行っています。

詳しくは10月頃にせたな町ホームページや回覧をご確認ください。

大切な予防接種！ 忘れずに受けましょう



聞きたいこと、質問などがあれば
お気軽にこちらへご連絡ください

北檜山区：せたな町健康センター（84-5984）

瀬棚区：瀬棚支所（87-3311）

大成区：大成支所（4-5511）

担当：保健師

せたな町役場 保健福祉課
久遠郡せたな町北檜山区徳島63-1